

青木油脂工業

青木油脂工業（大阪市淀川区、青木俊浩社長）は、省エネルギー効果の高い設備を導入し生産効率の向上と環境負荷低減の両立を目指した製造ラインの構築に注力する。その実現に向けて積極的に設備投資を行うメンバーの拠点が鹿島工場（茨城県神栖市）だ。鹿島工場のほか大阪工場（大阪市西淀川区）、滋賀工場（滋賀県日野町）の3つの拠点を構え衣料用洗剤や化粧品などの原料となる界面活性剤を製造する。

鹿島工場は二酸化炭素（CO₂）削減に向けた取り組みを推進し2024年度のCO₂排出量は2021年で生産能力が

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

10

界面活性剤の環境配慮ライン



近い滋賀工場と比べ約65%削減した。

鹿島工場では界面活性剤を生成する設備を洗浄

変種変量対応 CO₂大幅減

エネルギー使用量を約60%、CO₂排出量を約75%削減した

と信頼を寄せる。製造する界面活性剤は生活用品だけでなく農業やプラスチック製品、土

するためにサクラ（大阪市西淀川区）製「ビーポンプ式蒸発濃縮装置」を2台導入している。洗浄水の排水と廃棄物処理のために同装置を使用し従来と比べエネルギー使用量を約60%削減し、CO₂排出量は約75%削減した。鹿島工場施設の飯田拓実主任は「サクラの濃縮装置は安定した運転が可能でメンテナンス性に優れる」と信頼を寄せる。

大木・建築資材や電子部品向けなど幅広い用途に使用される。2000種類以上の界面活性剤を生産する。材料となる酸化エチレンの使用量や化学反応時間を全種類の製品を異なる工程で製造する。変種変量で石油化学製品を生産し人手を必要とする工程が多いため、効率化と環境規制の対応は難しいとされる。だが、環境負荷低減に向けて飯田主任は「石油化学製品を扱う材料メーカーとして環境に配慮する義務がある」と力を込める。

【事業所概要】▽本社所在地 大阪市淀川区西中島5の14の22、06・4805・7008▽主要生産品目 界面活性剤など▽年間CO₂排出量 5871ト（24年度）

（茨城支局長・坪満義）（おわり）